結論（研究の継続の妥当性に関する総合評価）

１．有限要素法のデータ解析など非常に多くの研究を実施しており、おおむね中間評価時点での目標は達成されている。

２．ただし本研究課題は、南海トラフ地震に対応するための非常に重要な研究開発であることから、今後の研究を進めるにあたって、さらに積極的に取り組むこと。

３．南海トラフ地震は、今後数年から数十年の間に起こりえるため、残り２年の研究終了後は、１つ上の段階の研究を検討すること。

各委員からの御意見

１．中間評価時点における成果の概要と当初目標の達成度

有限要素法のデータ解析など非常に多くの研究を実施しており、個別の研究としては評価できる。ただし研究課題については、社会的な影響が非常に大きく、目標も高くゴールが見えにくい。国全体の大きな課題としてみると、現時点の成果は少し不足しているところがあるため、国土地理院や国全体で積極的に研究に取り組むこと。

２．中間評価時点における成果公表状況と成果活用の見込み

成果については、論文の公表や国の検討会への報告がなされているが、単に公表や報告だけでなく、研究開発成果が社会に活用されていくよう積極的に取り組むこと。また、国全体として、非常に重要な課題であることをアピールしていく必要がある。

３．中間評価時点における残された課題と目標見直しの必要性

計画後半は、測地分科会における３つの指摘（海底測位結果を考慮した空間分布の把握、マルチ GNSS などによる１日以下の時間分解能での測位精度の向上、地下構造モデルの検証）について確実に取り組むこと。

４．その他課題内容に応じて必要な事項

南海トラフ地震は、今後数年から数十年の間に起こりえるため、研究後半では、１つ上の段階を考えながら研究を進め、研究終了後には、さらにその先の研究を検討すること。